

目的 適合度の高い衣服を構成することを目的に、男女の身体形態を把握し、比較検討を試みた。人体を立体的に把握する一方法として、シルエットにあらわれた人体外形輪郭角度をとりあげ、男女の身体形態を比較した。

方法 20才前後の男、女各約100名を被検者とし、前面、右側面のシルエット写真撮影を行い、製図用分度器によりシルエット写真の人体外形輪郭角度14項目を計測し検討した。

結果 (1)男女とも計測した角度項目の分布範囲が広く、シルエットにもさまざまな個体差がみられる。(2)計測した14項目中、胸部角度 α 、胸部角度 β 、背面角度 α 、腰部脇角度、腹部角度、の5項目は男女に有意差がみられ、各角度別出現率による分布形態にも明らか違いがみられる。(3)シルエットでみる性差は、女子は胸部、腹部、腰脇部が突出し、男子は背面肩甲骨部が突出している。(4)左右の角度のちがいを男女で比較してみると、肩角度は男女に有意差はなく、腰部脇角度については男女に有意差がみられ、女子が男子に比べ左脇角度 α の者が多い。